令和２・３年度　熊本県教育委員会指定　八代市教育委員会委嘱
「熊本の学び」研究指定校　学力向上プロジェクト研究

# 八代市立第一中学校

# 研　究　紀　要

研究主題

**「学びに向かう力」を備えた子供の育成**
**～学びの質を高める授業づくりを通して～**

令和３年１１月

目　　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

1　主題設定の理由と研究仮説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

2　研究組織　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

3　研究の構想　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

4　研究の視点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

5　研究の実際
（1）単元デザインの工夫　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

（2）「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善　・・・・・・・　6

（3）生徒の自己有用感を高める活動の充実　・・・・・・・・・・・・・　１１

6　成果と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５

おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８

# はじめに

本校では、令和２・３年度に熊本県教育委員会「熊本の学び」研究指定校事業における「学力向上プロジェクト研究」の指定を受け、「『学びに向かう力』を備えた子供の育成」を研究主題として、全職員で研究実践に取り組んで参りました。

中学校では、今年度から新学習指導要領が全面実施となり、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養が求められています。特に、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶのか」が示され、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められています。

昨年度は、「新学習指導要領」並びに「熊本の学び推進プラン」を全職員が理解することからはじめ、これまでの実践を土台として、「学びに向かう力」を「自ら取り組む力」「見通す力」「粘り強く取り組む力」「生かす力」の４つの力として捉え、支持的風土のある学習集団づくりを基盤としながら、「学びの質を高める授業づくり」を目指すこととしました。

そして今年度は、単元デザインの工夫はもちろんのこと、主体的な学びに加え、対話的で深い学びにつなげることをねらうこととしました。特に、「学びの質を高める授業づくりにおいて教師が意識すること」と「学びの質が高まった授業の姿（子供の姿）」の関連を明らかにし、どの授業においても「① 導入・めあての工夫」「② 既有の知識・技能の活用」「③ 対話的で深い学び」「④ 学びの実感」の４つ視点から、「学びの質を高める授業づくり」を行ってきました。

本日、これまでの研究の一端を公開する場として、授業公開をはじめとした研究発表の機会をいただきました。まだまだ実践の途中で、「熊本の学び」が期待している子供の姿には届いておりませんが、「未来の創り手となる子供たちの学びの姿」を目指して、学校総体として取り組んで参りました。本日の研究発表に関して、皆様方より忌憚のない御意見をいただき、今後の更なる研究推進につないでいきたいと考えています。

最後になりましたが、今回、このような研究の機会を与えていただきました熊本県教育委員会、八代市教育委員会の皆様には衷心より感謝申し上げます。また、実際の研究実践にあたり、懇切丁寧な御指導をいただきました熊本県教育委員会市町村教育局義務教育課、八代教育事務所、八代市教育委員会の先生方、その他多くの関係者の皆様に重ねて感謝申し上げます。

令和３年（２０２１年）１１月

八代市立第一中学校
校長　永野　直文

## 1　主題設定の理由と研究仮説

令和３年度（2021 年度）から全面実施となった中学校学習指導要領では、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養が求められている。特に、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶのか」が示され、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められている。また、本校の県学力・学習状況調査の結果において、「学びへの意欲」や「自ら取り組む力」、「自分の考えを伝える力」に課題があり、知識及び技能の習得はもとより、「学びに向かう力」を育てることは喫緊の課題である。

そこで、支持的風土のある学習集団づくりを基盤としながら、主体的な学びに加え、対話的で深い学びにつなげることを意識し、以下の４つの視点をもって「学びの質を高める」授業づくりを目指すこととした。

| | |
|---|---|
| 子供が「問いをもつ」 | （視点① 導入・めあての工夫） |
| 「各教科の『見方・考え方』を働かせる」 | （視点② 既有の知識・技能の活用） |
| 「自分や他者との対話によって学びを深める」 | （視点③ 対話的で深い学び） |
| 「学びを今後に生かす」 | （視点④ 学びの実感） |

**【研究仮説】**

仮説１：学びを生かそうとする姿が生まれる単元デザイン、疑問や予想が生まれる導入の工夫、対話的な学びによる協働的な学習の工夫、学びを深める練り上げや振り返りを意識した「熊本の学び」に基づく授業を展開することで、子供の「学びに向かう力」が高まるだろう。

仮説２：日常の授業や学級活動、生徒会活動を通して、「支持的風土のある学習集団づくり」を行うことで、生徒の自己有用感が高まり、子供の「学びに向かう力」が高まるだろう。

## 2　研究組織

本校における研究組織を以下のように設定した。月１回程度の研究推進委員会を実施し、計画的に校内研修等を進めると同時に４つの部会を設け、定期的に研究部会を実施し、活動してきた。

**校長**

**研究推進委員会**

**「豊かな心」育成部会**
- ○議論する道徳の時間
- ○自他を大切にする命の教育
- ○主体的な学級会・生徒会活動
- ○自己有用感を育む集団づくり

**「確かな学力」育成部会**
- ○基礎基本の確実な定着
- ○対話的で深い学びの充実
- ○タブレット端末等の効果的な活用
- ○家庭学習の充実

**「健やかな体」育成部会**
- ○基本的な生活習慣の定着
- ○安全教育、安全管理の徹底
- ○健康教育、食育の推進
- ○適正で魅力ある部活動の推進

**信頼される学校づくり部会**
- ○学習環境の整備
- ○教育活動の発信
- ○六校園（幼・小・中）との連携
- ○保護者、地域との連携

3　研究の構想

学校教育目標

**一人一人が尊重され、みんなで響き合う学校**

**スローガン 「夢実現」～笑顔と感動と一中プライド～**

目指す生徒像

**夢の実現に向かって ともに学び合う 心豊かでたくましい生徒**

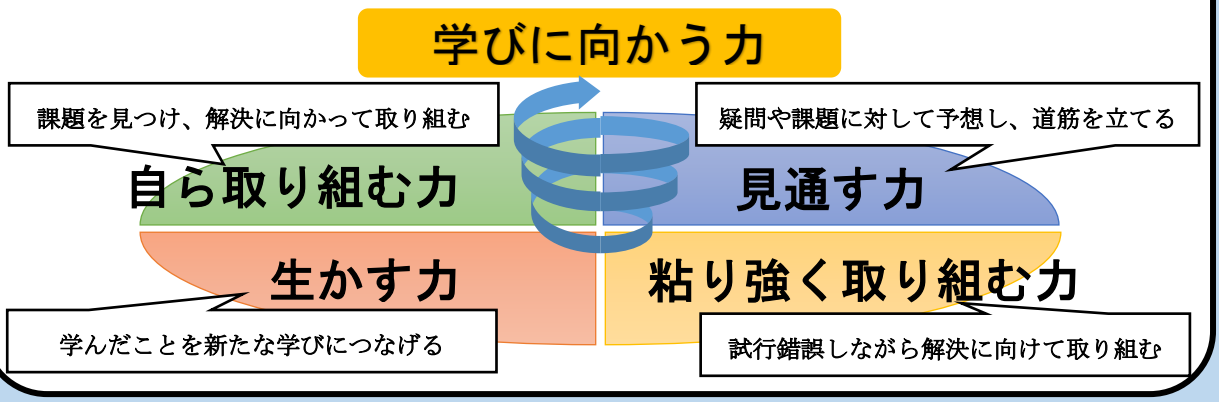
重点的に育成を目指す資質・能力

**自己を表現する力　学びに向かう力　自立に向かう力**

「熊本の学び」学力向上プロジェクト研究における目指す生徒像

**ともに学び合いながら 「学びに向かう力」を備えた生徒**

重点的に育成を目指す資質・能力




研究主題

**「学びに向かう力」を備えた子供の育成**

**～学びの質を高める授業づくりを通して～**

4　研究の視点

「熊本の学び」に基づく学びの質を高める授業づくりを推進するために、以下の３つの点を中心として研究を進めた。

（１）単元デザインの工夫

**子供の問いが連続し、学びを生かそうとする姿が生まれる単元デザインの設定**

① 単元終了時の子供の姿の設定
② 単元を通した学習課題の設定
③ 内容やまとまりを見通した授業構想

（２）「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

**●学びの質を高める授業づくりにおいて、教師が意識すること**

**視点① 導入・めあての工夫**
・子供が「なぜ」、「おそらく」などの疑問や予想をもつ導入ができているか。
⇒　子供が「問いをもつ」
**（自ら取り組む力、見通す力）**

**視点② 既有の知識・技能の活用**
・これまでの学びを生かし、子供がもっている各教科の見方や考え方を働かせることができているか。
⇒　子供が「各教科の『見方・考え方』を働かせる」
**（見通す力、粘り強く取り組む力）**

**視点③ 対話的で深い学び**
・自分や他者との対話によって、自分の考えを広げたり、深めたりできるように工夫しているか。
⇒　子供が「自分や他者との対話によって学びを深める」
**（粘り強く取り組む力、生かす力）**

**視点④ 学びの実感**
・まとめや振り返りの中で、本時で身に付けた力を実感できているか。
⇒　子供が「学びを今後に生かす」
**（生かす力、自ら取り組む力）**

**※各視点で、協働的な学習、授業の「焦点化・視覚化・共有化」の工夫、タブレット端末等の効果的な活用を図るようにする。**

**●学びの質が高まった授業の姿（子供の姿）**

①子供の問いが連続し、子供が単元を通してわくわくしながら意欲的に学びに向かう授業
**（単元を通してわくわくしながら、意欲的に学びに向かう子供）**

②子供が「見方・考え方」を働かせることを通して、深い学びにつなげることができる授業
**（「見方・考え方」を働かせることを通して、深い学びにつなげることができる子供）**

③教師の積極的なコーディネートにより子供が学び合うよさを実感している授業
**（学び合うよさを実感している子供）**

④単元・題材で身に付けた資質・能力を、子供が次の学習や実生活に生かすことができる授業
**（単元・題材で身に付けた資質・能力を次の学習や実生活に生かすことができる子供）**

（３）生徒の自己有用感を高める活動の充実

① 学びを支える学習環境づくり
② 生徒の主体性と豊かな心を育む道徳・学級活動
③ 自ら気付き、考え、実践する生徒会活動
④ 家庭との連携による家庭学習の習慣化

## 5　研究の実際

### （1）単元デザインの工夫

中学校学習指導要領解説総則編の改訂の基本方針には、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める際の指導上の配慮事項として、「１回１回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。」とされている。そのために、「熊本の学び推進プラン」でも単元デザインの必要性について、第３章重点１のポイント１に示されている。本校でも昨年度から、学習構想案の作成時には「単元終了時の生徒の姿」、「単元を通した学習課題」及び「単元で働かせる見方・考え方」について、学習構想案検討会や授業研究会等で検討や協議を重ね、単元デザインの工夫を行ってきた。以下に示す内容が、その取組の例である。

【本校で共通理解を図ったこと】

| 単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿） | |
|---|---|
| 学習指導要領に示された内容に基づく単元の目標、単元の評価規準をもとに、子供の実態を踏まえ単元のゴールの姿を設定する。次の単元の学習や実生活に生かそうとする姿を示す。本校では、学びに向かう力（自ら取り組む力、見通す力、粘り強く取り組む力、生かす力）がこの姿に反映されるように意識して設定することで、４つの力のどの力の育成を目指しているのかを明確にした。 | |
| **単元を通した学習課題** | **本単元で働かせる見方・考え方** |
| 設定した単元のゴールに迫るために、日常生活や社会生活との関連や子供の資質・能力を育成するための学習活動を意識した課題設定にする。 | 学習指導要領に示された内容に基づき、単元で働かせる見方・考え方を具体的に表現する。 |

【単元終了時の生徒の姿の例と単元を通した学習課題の例】

【　単元終了時の生徒の姿の例　】

●相似についての基本的な理解を深めるとともに、理解した内容や身に付けた知識を利用し、実際に計測することが難しい高さや距離などを計算によって求めることができる生徒。（３年数学）

●光の反射や屈折、凸レンズの働きについて理解を深めるとともに、日常生活の中で起こる光に関する事物・現象に自ら進んで目を向け、科学的に考えたり、説明したりしようとしている生徒。（１年理科）

●外国の人に「熊本のおすすめのもの」を伝えるために、調べた内容に基づく理由や根拠を交えながら、事実や情報を整理し、聞き手に配慮した発表をしている生徒。（２年英語）

【　単元を通した学習課題の例　】

●体育館の天井の高さを、相似を使って求めよう。（３年数学）

●日常生活の中で起こる光に関する事物・現象は、光の規則性や関係性をもとにしてどのように説明できるだろうか。（１年理科）

●ＡＬＴとその家族に熊本での滞在を楽しんでもらうために、「おすすめのもの」を紹介する発表（プレゼンテーション）をしよう。（２年英語）

（２）「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

「『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善」については、研究組織の中の「確かな学力育成部会」や「研究授業」を中心に取り組んできた。

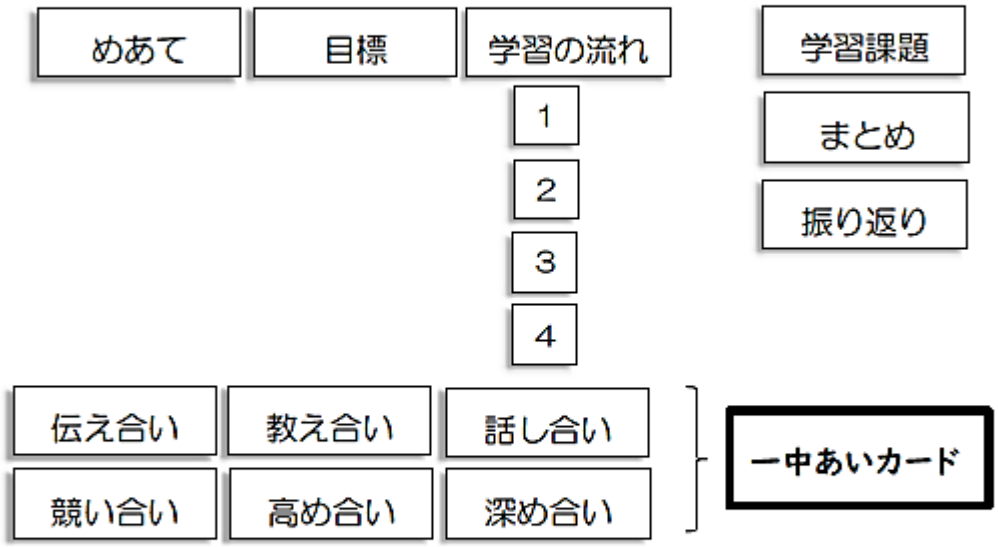
まず、めあてと学習課題、まとめと振り返りを意識した授業を行うために、「確かな学力育成部会」で「授業用カード」を作成し、毎時間の授業の中で提示するようにした。それぞれの関係については、「めあて」に対する「振り返り」、「学習課題」に対する「まとめ」という関係を原則とした。また、「学び合い」の意識を教師と生徒がともに高め合うために、「一中あいカード」を作成し、学び合う場面で活用するようにした。

**１．「授業用カード」について**

① どの授業でも使えるように、**各教室の黒板の右側側面、またはタブレット保管庫側面**に貼っておく。（ケースなどに入れ、黒板側面に保管も可。）

② 毎時の授業で必ず活用する。（　カードは下の６種類　＋　一中あいカード　）

※ めあて　又は　目　標、学習の流れ　は必ず毎回提示。（授業のＵＤ化の視点）




伝え合い：自分の意見を他の人に伝える、意見はしっかり聞く
教え合い：わからないところをわかる人が教える
話し合い：課題に対しての自分の考えなど、意見を出し合い、考えを広げたり、決定したりする
競い合い：より正確に、より早く、より多くなど他の人と競い合って課題を進める
高め合い：複数の意見や方法を出しながら、よりよいものにするために、話し合う（行動する）
＊（時間をかけて）積み上げながら、よりよいものに高めていくイメージ
深め合い：議論や調査を通して、一つのことをより追求していく
＊追求しながら、掘り下げていくイメージ

※教科に応じて他に必要なカードがあれば、各自・各教科で作成してください。

※「めあて」は、目標やねらいを子供たちと共有できるように示すもの。「学習課題」は、目標の達成に向けて子供たちが解決する課題として示すもの 。
（「熊本の学び」学習構想案作成のポイント（本時）参照 ）

※「まとめ」は、子供が学習した内容を確実に身に付けることができるように、何を学んだのかを明らかにする活動。「振り返り」は、「学び」の価値や成果を自覚したり、「次の学び」に向かう問いや課題を明らかにし、学習意欲を高めたりするために、子供たちが自らの学習を振り返る活動。（「 熊本の学び推進プラン」 ｐ４０参照 ）

さらに、学びの質を高める授業づくりにおいて教師が意識することとして、視点①「導入・めあての工夫」、視点②「既有の知識・技能の活用」、視点③「対話的で深い学び」、視点④「学びの実感」の４つの視点を意識した授業づくりに取り組んできた。

視点①「導入・めあての工夫」では、意欲的に学びに向かう子供の姿につなげるために、教師とのやり取りを通して、子供が発する「なぜ」「おそらく」などのつぶやきを拾い、子供が疑問や予想をもつ導入やめあての工夫をした。「疑問をもつ教材」、「驚きや発見がある教材」、「矛盾や葛藤を生む教材」などとの出合わせ方を教師が工夫することで、子供たちに問いが生まれ学習が動機付けられ、学ぶ意欲が高まった。

疑問をもつ教材の提示例

導入で２枚の写真を比較し、子供の声から「なぜ急速な経済成長をしたのか」という学習課題を立てた。（１年社会）

驚きや発見がある教材の提示例

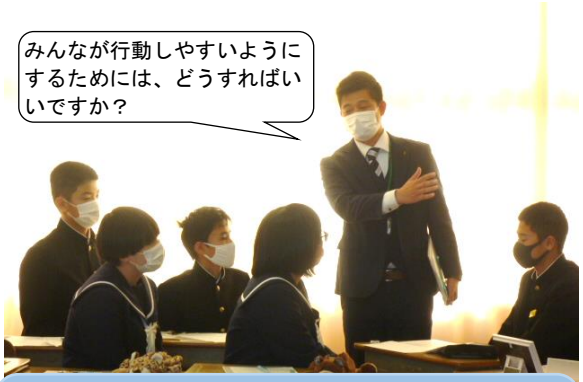
コップに水を入れることで硬貨が見えるようになる現象を通して、学習課題を立てた。（１年理科）

視点②「既有の知識・技能の活用」では、子供がこれまでの生活経験や既習事項などの学びを生かし、各教科の見方・考え方を働かせながら、学習課題の解決を図ることができるようにした。子供が「見方・考え方」を働かせながら、既有の知識技能を活用することで、深い学びにつなげることができると考える。「既有の知識・技能」を活用しながら、それでも解決できない学習課題に出合ったり、より効果的な解決方法を見いだしたりする中で、「新しい知識・技能」の獲得につなげることもできる。

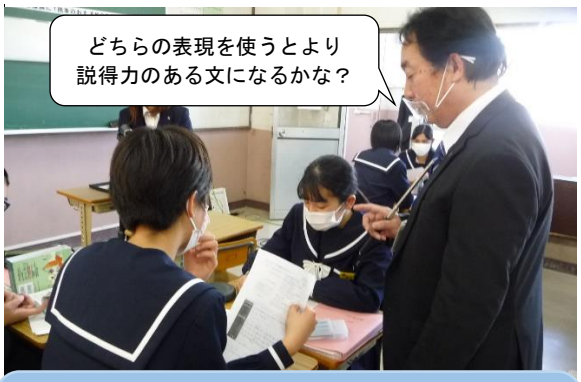
平行四辺形になる条件と関連付けながら、動的作図ツールを使い、証明の流れを確認した。（２年数学）

これまで学習した関係代名詞を用いて、相手に伝わるように、国名に関する４ヒントクイズの作成を行った。（３年英語）

視点③「対話的で深い学び」では、子供が自分や他者との対話によって、自分の考えを広げたり、深めたりするために、他者や自分自身に問いかけ、問い直し、問い続けることが大切であると考える。そうすることで、学び合うよさを実感したり、粘り強く取り組んだりする姿につなげることができる。また、そのために教師が、「子供の意見を引き出す問い」や「共通点や相違点などに気付かせる問い」など「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのコーディネートを行うことが大切である。



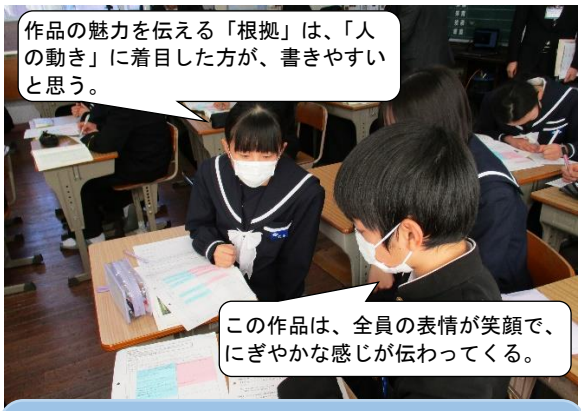

学級目標達成のために必要な取組について、具体例を挙げながら、意見を出し合い、話合いを進めた。（２年特別活動）



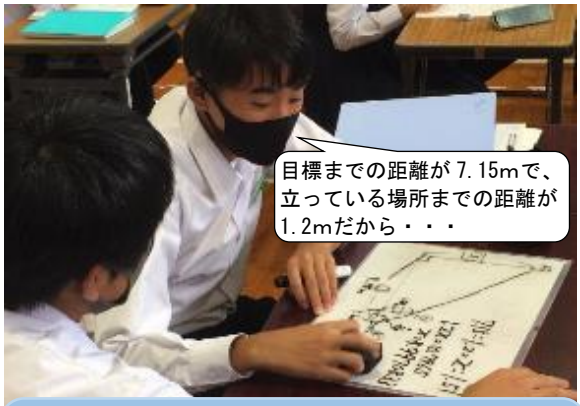

各自で考えた「熊本のおすすめのもの」を紹介する文について、より説得力のある文にするために班で推敲した。（２年英語）

一枚の作品から推測した作者の思いを出し合い、共有した。他の人の見方や感じ方の違いを感じながら、学びを深めた。（３年美術）

タブレット端末の資料を活用し、意見を出し合った。その後、ホワイトボードを活用し、班の意見を整理した。（１年社会）

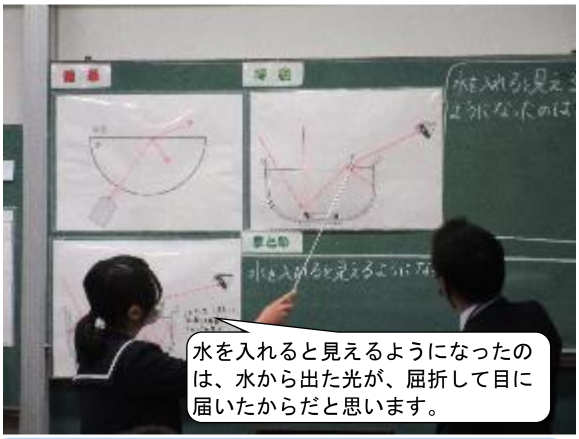



作品の鑑賞文に関する構成メモの文章について、対話しながらよりよい構成メモにするためにペアで検討をした。（１年国語）



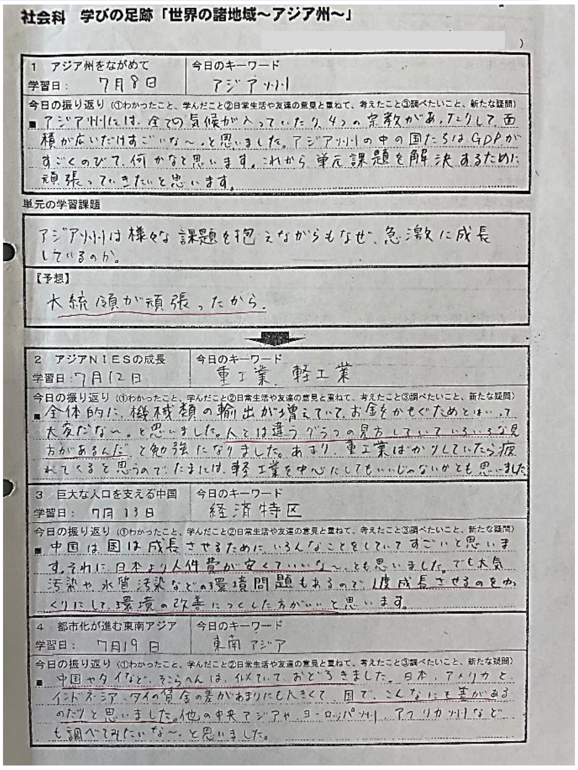

比を利用して、体育館の高さを求める方法について、班で考えた方法を説明するためにホワイトボードに整理した。（３年数学）

視点④「学びの実感」では、子供が自分の言葉や学習した内容を整理したり、教師が子供の言葉を価値付けしながら行う「まとめ」や学びの価値や成果を自覚したり、次の学びに向かう問いや課題につなげたりする「振り返り」の中で、本時で身に付けた力を子供たちが実感できているのかが大切である。特に、「振り返り」で、子供たちが自分自身と対話し、「その学習でどのように自分が変わったのか」、「日常生活を振り返ったり、友達の意見を聞いたりして、どう思ったのか」、「新たな疑問や問いは何か」など学習を自分の中に落としながら、次の学びにつないでいくことは、「学びに向かう力」を育んでいくためにも、とても大切なことである。そこで、各教科で考えられる振り返りの視点を検討し、教科で共有し合い、振り返りシートを活用し自分の学びを蓄積したり、振り返りを発表して互いの学びを深めたりして、「学びの実感」につなげるための工夫を行った。




まとめに向けて、各班の考察を発表した後、生徒の言葉を使って、学習課題に対するまとめをした。（１年理科）

よりよい鑑賞文にするために工夫したことや参考になった友だちの意見についての視点を持ち、振り返った。（１年国語）



社会科　学びの足跡「世界の諸地域～アジア州～」

1　アジア州をながめて　学習日：7月8日　今日のキーワード：アジア州

今日の振り返り（①わかったこと、学んだこと②日常生活や友達の意見と重ねて、考えたこと③調べたいこと、新たな疑問）

アジア州には、全ての気候が入っていたり、4つの宗教があったりして、面積が広いだけすごいな～。と思いました。アジア州の中の国たちはGDPがすごくのびて、何かなと思います。これから単元課題を解決するために頑張っていきたいと思います。

単元の学習課題

アジア州は様々な課題を抱えながらもなぜ、急激に成長しているのか。

【予想】

大統領が頑張ったから。

2　アジアNIESの成長　学習日：7月12日　今日のキーワード：重工業、軽工業

今日の振り返り（①わかったこと、学んだこと②日常生活や友達の意見と重ねて、考えたこと③調べたいこと、新たな疑問）

全体的に、機械類の輸出が増えていて、お金をかせぐためとはいって大変だな～。と思いました。人とは違うグラフの見方していていろいろな見方があるんだと勉強になりました。あまり、重工業ばかりしていたら疲れてくると思うのでたまには、軽工業を中心にしてもいいじゃないかとも思いました。

3　巨大な人口を支える中国　学習日：7月13日　今日のキーワード：経済特区

今日の振り返り（①わかったこと、学んだこと②日常生活や友達の意見と重ねて、考えたこと③調べたいこと、新たな疑問）

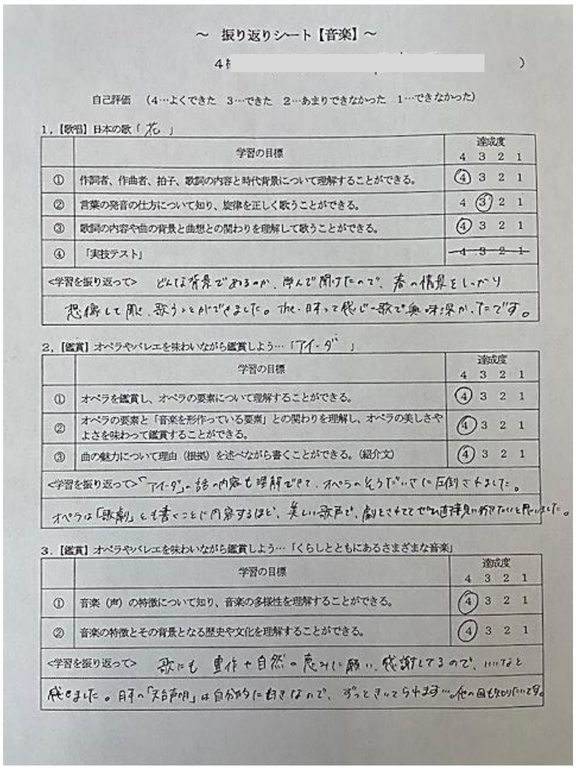
中国は国は成長させるために、いろんなことをしていてすごいと思います。それに日本より人件費が安くていいな～。とも思いました。でも大気汚染や水質汚染などの環境問題もあるので1度成長させるのをゆっくりにして、環境の改善につくした方がいいと思います。

4　都市化が進む東南アジア　学習日：7月19日　今日のキーワード：東南アジア

今日の振り返り（①わかったこと、学んだこと②日常生活や友達の意見と重ねて、考えたこと③調べたいこと、新たな疑問）

中国やタイなど、そこらへんは、似ていておどろきました。日本、アメリカと、インドネシア、タイの賃金の差があまりにも大きくて、国で、こんなにも差があるのだなと思いました。他の中央アジアや、ヨーロッパ州、アフリカ州なども調べてみたいな～と思いました。

【社会科】振り返りシート



～ 振り返りシート【音楽】～

4組 )

自己評価 （4…よくできた　3…できた　2…あまりできなかった　1…できなかった）

1.【歌唱】日本の歌「花」

| | 学習の目標 | 達成度 4 3 2 1 |
|---|---|---|
| ① | 作詞者、作曲者、拍子、歌詞の内容と時代背景について理解することができる。 | ④ 3 2 1 |
| ② | 言葉の発音の仕方について知り、旋律を正しく歌うことができる。 | 4 ③ 2 1 |
| ③ | 歌詞の内容や曲の背景と曲想との関わりを理解して歌うことができる。 | ④ 3 2 1 |
| ④ | 「実技テスト」 | ~~4 3 2 1~~ |

<学習を振り返って> どんな背景であるのか、学んで聞けたので、春の情景をしっかり想像して聞く、歌うことができました。the・日本って感じ～歌で興味深かったです。

2.【鑑賞】オペラやバレエを味わいながら鑑賞しよう…「アイーダ」

| | 学習の目標 | 達成度 4 3 2 1 |
|---|---|---|
| ① | オペラを鑑賞し、オペラの要素について理解することができる。 | ④ 3 2 1 |
| ② | オペラの要素と「音楽を形作っている要素」との関わりを理解し、オペラの美しさやよさを味わって鑑賞することができる。 | ④ 3 2 1 |
| ③ | 曲の魅力について理由（根拠）を述べながら書くことができる。（紹介文） | ④ 3 2 1 |

<学習を振り返って>「アイーダ」の話の内容も理解できて、オペラのそうだいさに圧倒されました。オペラは「歌劇」とも書くことに納得するほど、美しい歌声で、劇とされててぜひ直接見に行きたいと思いました。

3.【鑑賞】オペラやバレエを味わいながら鑑賞しよう…「くらしとともにあるさまざまな音楽」

| | 学習の目標 | 達成度 4 3 2 1 |
|---|---|---|
| ① | 音楽（声）の特徴について知り、音楽の多様性を理解することができる。 | ④ 3 2 1 |
| ② | 音楽の特徴とその背景となる歴史や文化を理解することができる。 | ④ 3 2 1 |

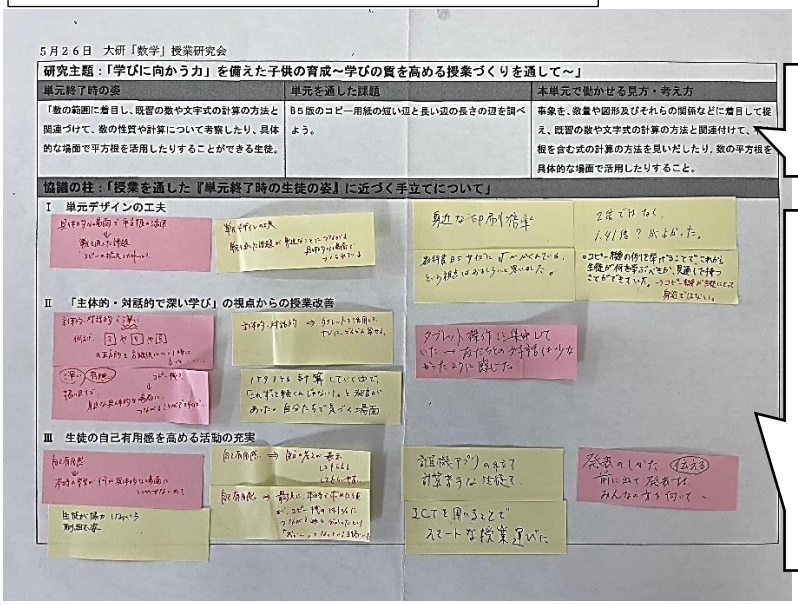
<学習を振り返って> 歌にも豊作や自然の恵みに願い、感謝してるので、いいなと感じました。日本の「天台声明」は自分的に好きなので、ずっときいてられます…。他の国も知りたいです。

【音楽科】振り返りシート

これら「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のために、研究授業前に「学習構想案検討会」を実施し、時には、専門教科の枠を超えて、全職員で授業改善に関する研究を進めた。学習構想案は、熊本の授業づくりの理念（教師が基礎的な知識及び技能を徹底して身に付けさせ、子供自らが、課題解決に向けて能動的に学ぶこと）の下、「確かな指導観に基づき、子供の学びの側から学習を構想する」ことが大切である（「熊本の学び推進プラン」ｐ４５参照）。それを踏まえ、「大切にしたい３項目」を学習構想案検討会で設定することからスタートした。その後も、指導計画や評価計画、展開案の検討を重ねた。

また、授業研究会では、子供たちの学びの姿を見取りながら、授業の手立てが適切だったのかの検討を進めた。グループ別の協議で気付きを出し合った後に、全体で意見を共有し、手立てについての理解を深めた。

授業研究会（グループ別協議）用シート




大切にしたい３項目を確認。

「Ⅰ　単元デザインの工夫」
「Ⅱ　『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善」
「Ⅲ　生徒の自己有用感を高める活動の充実」
の３つの視点から授業の手立てを検討した。

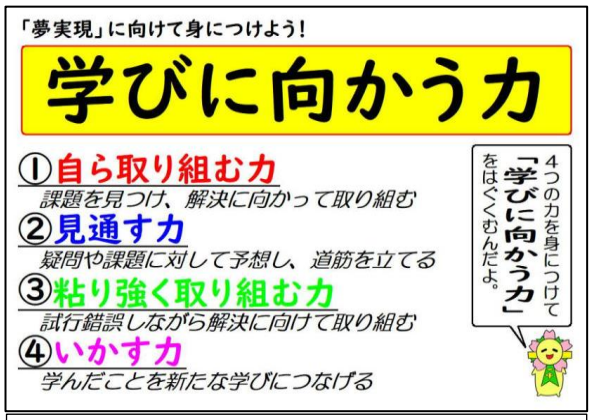
研究指定１年目（令和２年度）の公開授業では、オンラインでの授業公開だけでなく、参観した先生方全員から質問や意見をいただけるように、オンライン授業研究会を実施した。これは、初めての試みであったが、単に授業を配信するだけでなく、参観者がどのように授業や子供の姿をとらえたのか率直な意見をその場で交換することで、非常に有意義な取組になった。

オンライン授業研究会の様子

また、各授業研究会では、「学びの質を高める授業づくりの視点①導入・めあての工夫～視点④学びの実感」の中で、授業者が本授業の中で大切にした視点を１～２つ取り上げて協議したことで、その点を中心に授業づくりの方法や「学びに向かう力」を高める手立てについて様々な意見をいただくことができた。

（３）生徒の自己有用感を高める活動の充実

研究の視点の３つ目にあたる、「生徒の自己有用感を高める活動の充実」については、研究組織の中の「豊かな心」育成部会、「健やかな体」育成部会、信頼される学校づくり部会を中心に取り組んできた。




【写真１】学びに向かう力（教室掲示用）

①　学びを支える学習環境づくり

「学びに向かう力」を教師、生徒が共に確認できるように、全教室の前方に右上のような掲示物を掲示した【写真１】。

また、廊下に設置した掲示板では、「情報・学びの共有及び確認」と「学習面・生活面の意欲の向上」の２つを意識して掲示するようにした。特に、身に付けたい力への意識を高めるため、生徒の活動や学習の様子にタイトルをつけて掲示した【写真２】。進路コーナーでは、上級学校紹介の掲示を行い、進路への意識を高めた【写真３】。各学年の掲示板では、学習クラスマッチの表彰状や中体連メッセージ、卒業生の活躍を紹介するコーナーを設けた。そのような工夫により、多くの生徒が足を止めて、該当学年の生徒だけでなく、掲示物の確認をする様子が見られるようになった。

【写真２】生徒の活動や学習の様子の掲示

【写真３】　進路コーナーの様子

また、生徒が先生に気軽に質問できる「質問コーナー」や放課後や昼休みなどに自学ができる「自学コーナー」を職員室の近くに設けた【写真４】。

【写真４】　質問コーナーの様子

更に、３年生を対象に「なるほど学習会」を実施し、ＯＢの先生方や３年部の職員を中心に、生徒の学びをサポートしたり、生徒会主催でテスト前の放課後の時間を使って自習室や学び合いの教室を解放する「放課後自習室」の取組を行ったりした。いずれも、自主的に参加できる取組であるが、たくさんの生徒が利用し、各自のペースで学習を進めたり、自分だけでは分からない部分を質問したり、時には教え合ったりと主体的に取り組む姿が見られた。

② 生徒の主体性と豊かな心を育む道徳・学級活動

ア 命の教育

本校では、命を考える日を設定しており、毎年、そのうちの１回は全学年で共通の題材を用いた道徳の授業を実施している。題材の選定は命の教育担当を中心に、複数の職員で検討し、その時々で必要だと考えられる題材を決め、各学級で実践をした。各学年ごとに授業を実践した感想を話し合ったり、授業の流れの改善点などについて出し合ったりして、今後の授業改善に向けた協議も行った。取組後には、授業の様子や実践内容、生徒の感想をまとめたリーフレットも作成し、生徒だけでなく、保護者等への啓発も行った。

イ 自己理解・自己開示・他者理解の取組

昨年度から、各学級の支持的風土の醸成や人間関係をよりよいものにするために、エンカウンターを実践している【写真５】。周囲に気を配ることの大切さに気付かせたり、自己理解・自己開示や他者理解のきっかけづくりとしたりすることを目的としたものである。「七夕飾り」づくりでは、生徒自身が今の自分と向き合い、これからどのように生きていきたいのか、友達はどのような思いを抱いているのかを考える機会としてこの活動を行った【写真６】。活動の内容は、各生徒が、努力を伴う願いごと等を短冊に書き、記入後に模造紙に貼り付け、教室や廊下に掲示した。自分の思いを表に出すこと、友達の思いや願いを知ることを通して、新たな会話のきっかけを生むことにつながるよう、掲示後の声掛けも心掛けて行った。「気づきの木」の活動は、友達のよいところ探しの一環として実施している【写真７】。葉っぱ型に切り取られた紙に、普段の生活の中で友達に対して感じている感謝の気持ちや友達のよさを書き、模造紙に書かれた木に貼り付けて、伝え合うことができるようにした。この取組では、自分では気付いていない自分のよさについて知ることができ、自己理解を促し、自己肯定感を高めたり、友達のよいところ探しの中で、友達のことをより詳しく知ろうという他者理解の機会となったりした。また、教室や廊下に掲示

【写真５】エンカウンターの様子

【写真６】七夕飾りづくりの様子

【写真７】「気づきの木」

することで、他の生徒も見ることができ、友達のよいところを共有する機会になった。

③　自ら気付き、考え、実践する生徒会活動

本校では、様々な行事を生徒自らの手でつくり上げているという実感や達成感を生徒がもつことができるように、学級活動の充実、生徒会活動の活性化を図っている。

ア　生徒会本部の取組

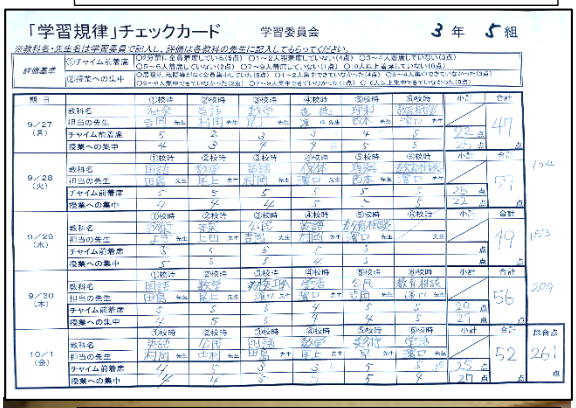
生徒総会前には、本部役員や専門委員長だけで学校をつくり上げるのではなく、自分たち一人一人が関わりをもっているという帰属意識を高めることを目的として、生徒総会に向けた学級会を行い、各専門委員会の年間計画の検討や校則についての話合いなどを行った。本校の生徒会活動は、生徒が主体的に活動できるように立案から計画までを生徒が実施し、担当職員で内容を吟味した後、改善が必要であれば助言するような形をとっている。また、本部役員と各専門委員長が年間計画に沿ってそれぞれが考えた取組を実践し、振り返りを生徒会掲示板や各学級を通じて、学校全体に報道することで、学校全体の生徒会活動がどのように行われているのかを可視化している【写真８】。

【写真８】　生徒会掲示板

イ　各専門委員会の取組

学習委員会では、学びへの意識を高めるために、「学習規律チェック」を各学期１回程度行った。授業前の「２分前着席」や「授業への集中」を教師が評価することで、各学級の到達度などが目で見て分かり、生徒も意識しやすく、前向きに取り組むことができた【写真９】。

【写真９】学習規律チェックカード




安全委員会では、「交通安全教室」の中で、ヘルメットの着用や自転車ルールの徹底のために全校生徒の前で、ロールプレイをして呼びかけを行ったり、部活動のキャプテン会議と連携して、朝から自転車並べの呼びかけを行ったりした【写真１０】。

【写真１０】交通安全教室の取組

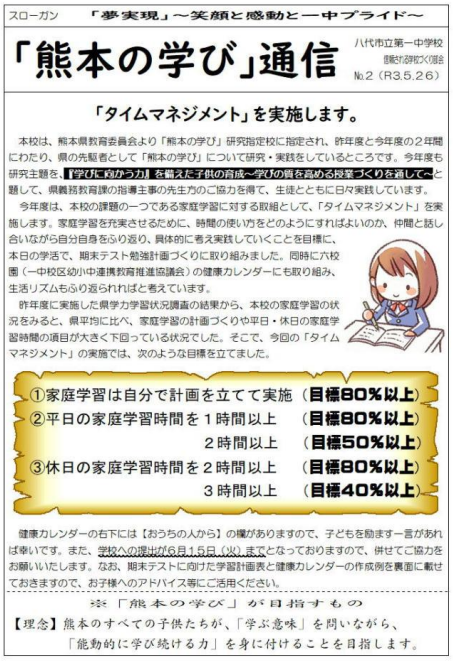
保健委員会では、手洗い実施率のアップを目指して「手洗いチェック」を数回実施し、その結果を生徒朝会で発表したり、新型コロナウイルス感染症予防のための取組を生徒朝会で発表したりした。

給食委員会では、放送委員会と協力し、献立に関する知識、給食受け庫への受取の順位を毎回放送し、給食の時間がスムーズに進むような取組を行っている。また、残食ゼロリンピックを実施し、残食ゼロを目標に各クラスで取り組んだ。その結果をもとに掲示を行い、「なぜ残食ゼロを目指すのか」などを考えることで食に対するありがたさを再認識する機会となるようにした。

④　家庭との連携による家庭学習の習慣化

本校の課題の一つとして家庭学習が挙げられる。家庭学習の習慣化、学習時間、学習の仕方など様々な問題が考えられるが、本取組は保護者との連携を推進するために、学習状況の保護者確認調査を行った。保護者にも、家庭学習の状況を把握していただき、保護者からの励ましや声掛け等により、子供の学習意欲の喚起につなげる取組である。今年度は、夏の課題の取組状況の確認や定期テスト前の学習状況の確認などを保護者にもお願いした。取組に関して、家庭への啓発を行うために、「熊本の学び」通信を発行した【写真１１】。

【写真１１】「熊本の学び」通信



スローガン　「夢実現」～笑顔と感動と一中プライド～

# 「熊本の学び」通信

八代市立第一中学校
「熊」が輝くく(部会
No.2（R3.5.26）

## 「タイムマネジメント」を実施します。

本校は、熊本県教育委員会より「熊本の学び」研究指定校に指定され、昨年度と今年度の２年間にわたり、県の先駆者として「熊本の学び」について研究・実践をしているところです。今年度も研究主題を、**【学びに向かう力】を育えた子供の育成～学びの質を高める授業づくりを通して～**と題して、県義務教育課の指導主事の先生方のご協力を得て、生徒とともに日々実践しています。

今年度は、本校の課題の一つである家庭学習に対する取組として、「タイムマネジメント」を実施します。家庭学習を充実させるために、時間の使い方をどのようにすればよいのか、仲間と話し合いながら自分自身をふり返り、具体的に考え実践していくことを目標に、本日の学活で、期末テスト勉強計画づくりに取り組みました。同時に六校園（一中校区幼小中連携教育推進協議会）の健康カレンダーにも取り組み、生活リズムもふり返られればと考えています。

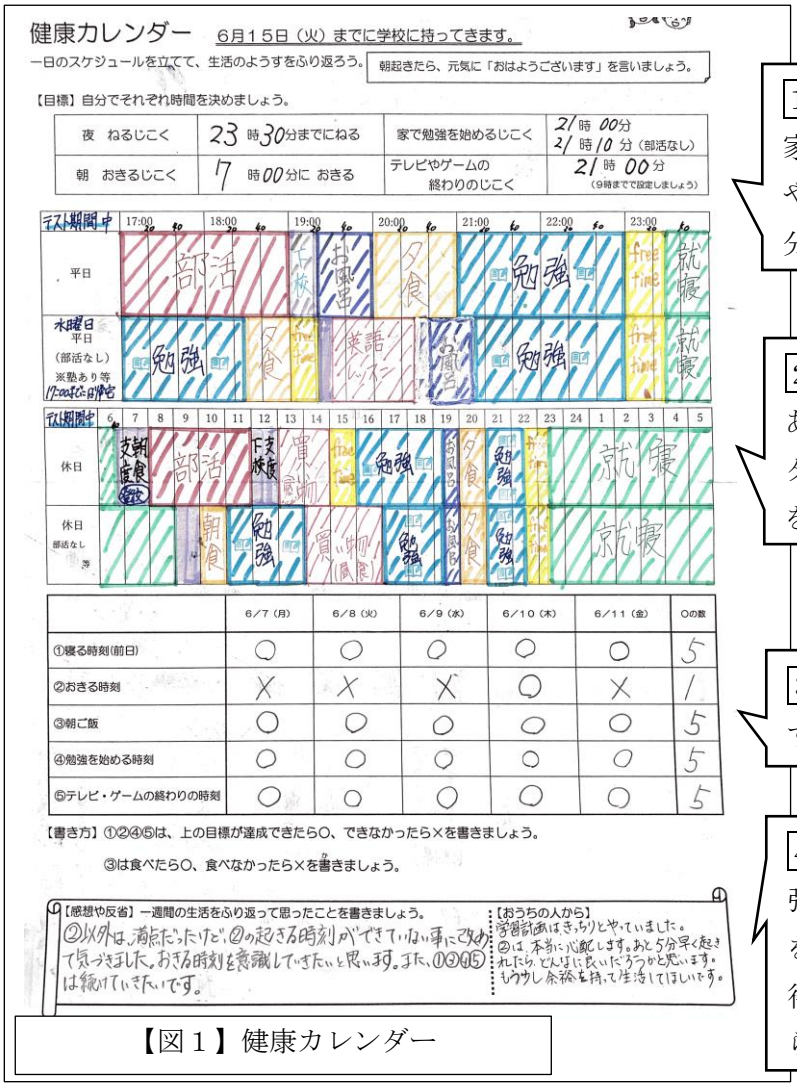
昨年度に実施した県学力学習状況調査の結果から、本校の家庭学習の状況をみると、県平均に比べ、家庭学習の計画づくりや平日・休日の家庭学習時間の項目が大きく下回っている状況でした。そこで、今回の「タイムマネジメント」の実施では、次のような目標を立てました。

①家庭学習は自分で計画を立てて実施（目標80％以上）
②平日の家庭学習時間を１時間以上（目標80％以上）
２時間以上（目標50％以上）
③休日の家庭学習時間を２時間以上（目標80％以上）
３時間以上（目標40％以上）

健康カレンダーの右下には【おうちの人から】の欄がありますので、子どもを励ます一言があれば幸いです。また、学校への提出が6月15日（火）まで となっておりますので、併せてご協力をお願いいたします。なお、期末テストに向けた学習計画表と健康カレンダーの作成例を裏面に載せておきますので、お子様へのアドバイス等にご活用ください。

※「熊本の学び」が目指すもの
【理念】熊本のすべての子供たちが、「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けることを目指します。

また、家庭学習の習慣化を図るために、帰りの会時に生徒会が「道標（生活ノート）」に「今日の学習開始時刻」と「学習の予定」を記入する呼びかけを放送で行い、帰りの会の中で家庭学習に関する計画を立てるように時間設定を行った。さらに、定期テスト前には、「タイムマネジメント」の取組を行い、一中校区の幼・小・中で連携して取り組んでいる健康カレンダーの作成とテスト前の学習計画を同時に実施するようにした【図１】【図２、写真１２（ｐ１５）】。



健康カレンダー　6月15日（火）までに学校に持ってきます。

一日のスケジュールを立てて、生活のようすをふり返ろう。　朝起きたら、元気に「おはようございます」を言いましょう。

【目標】自分でそれぞれ時間を決めましょう。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 夜　ねるじこく | 23 時30分までにねる | 家で勉強を始めるじこく | 21時 00分<br>21時 10分（部活なし） |
| 朝　おきるじこく | 7 時00分に おきる | テレビやゲームの終わりのじこく | 21時 00分（9時までで設定しましょう） |

テスト期間中　17:00 18:00 19:00 20:00 21:00 22:00 23:00

平日：部活　下校　お風呂　夕食　勉強　free time　就寝

水曜日 平日（部活なし）※塾あり等 17:00ごろ 自宅：勉強　夕食　free time　英語レッスン　風呂　勉強　free time　就寝

テスト期間中　6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 1 2 3 4 5

休日：支度 朝食 部活　下校 支度　車移動　勉強　夕食　勉強　就寝

休日 部活なし 等：朝食　勉強　買い物 昼食　勉強　夕食　勉強　就寝

| | 6／7（月） | 6／8（火） | 6／9（水） | 6／10（木） | 6／11（金） | ○の数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ①寝る時刻(前日) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 5 |
| ②おきる時刻 | × | × | × | ○ | × | 1 |
| ③朝ご飯 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 5 |
| ④勉強を始める時刻 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 5 |
| ⑤テレビ・ゲームの終わりの時刻 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 5 |

【書き方】①②④⑤は、上の目標が達成できたら○、できなかったら×を書きましょう。
③は食べたら○、食べなかったら×を書きましょう。

【感想や反省】一週間の生活をふり返って思ったことを書きましょう。
②以外は、満点だったけど、②の起きる時刻ができていない事にこれから気づきました。おきる時刻を意識してできたいと思います。また、①③④⑤は続けていきたいです。

【おうちの人から】
学習計画はきっちりとやっていました。
②は、本当に心配します。あと5分早く起きれたら、どんなに良いだろうかと思います。もうすこし余裕を持って生活してほしいです。

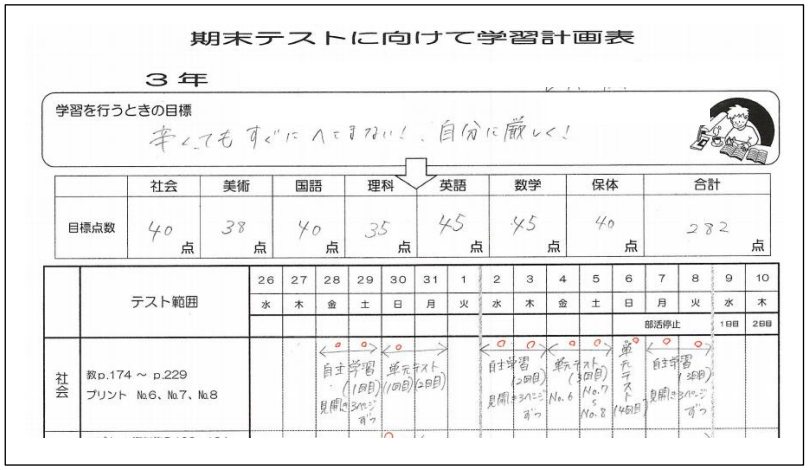
【図１】健康カレンダー

1 夜寝る時刻、朝起きる時刻、家で勉強を始める時刻、テレビやゲーム等の終わりの時刻を自分で決める。

2 平日と休日、さらに部活動がある日とない日など、４つのパターンで、一日のスケジュールを立てる。

3 ５日間の実施状況をチェックする。

4 ５日間の取組を振り返り、頑張ったことや今後への課題などを記入する。保護者にも協力を得るため、コメントを書いてもらう。



期末テストに向けて学習計画表

３年

学習を行うときの目標

辛くてもすぐにへこまない！、自分に厳しく！

| | 社会 | 美術 | 国語 | 理科 | 英語 | 数学 | 保体 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 目標点数 | 40点 | 38点 | 40点 | 35点 | 45点 | 45点 | 40点 | 282点 |

| | テスト範囲 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 |
| | | | | | | | | | | | | | 部活停止 | | | 1日 | 2日 |
| 社会 | 教p.174 ～ p.229<br>プリント №6、№7、№8 | | | 自主学習（1回目）見開き1ページずつ | | 単元テスト（1回目）（2回目） | | | 自主学習（2回目）見開き3ページずつ | | 単元テスト（3回目）No.6 | No.7 と No.8 | 単元テスト（4回目） | 自主学習（3回目）見開き2ページずつ | | | |

【図２】
定期テスト前の学習計画表

5 健康カレンダーをもとに、学習時間を決めた後に学習を行う時の目標や家庭学習の内容を具体的に記録し、テストまでの２週間の学習計画を立てる。

健康カレンダーと定期テストの学習計画を同時に実施するタイムマネジメントの取組で、家庭での時間の使い方をマネジメントする意識が生まれ、自分自身の生活を見直すきっかけとなり、時間を有効に使う生徒が増えた。全校共通の取組で、保護者にも学習状況や時間の使い方などを見守ってもらい、取組の状況についてもコメントをもらうことで家庭との連携を図ることができた。これは定期テスト前のみの実施だったが、定期テスト前以外の学習時間の増加が見られ、その後も、学習計画を立てて、学習に取り組むことができるようになった生徒も見られた。

【写真１２】タイムマネジメントの取組

## 6　成果と課題

以下に示すグラフは、本校が研究指定を受けた２年間で行った「学びのアンケート」及び「キャリア・パスポート」、「全国学力・学習状況調査」、「熊本県学力・学習状況調査」を比較した結果である。

【仮説１】については、【グラフ１】～【グラフ４】から、学びのアンケートの「学びに向かう力」（自ら取り組む力、見通す力、粘り強く取り組む力、生かす力）で、取組当初と比較して、「よく」と「まあまあ」を合わせた肯定的な結果を見ると、すべての項目で約８０％まで伸びていることが分かる。特に、「生かす力」については、４つの力の中で最も伸びが見られ、授業で学んだことを他の授業や日常生活でも意識していることがうかがえる結果となった。

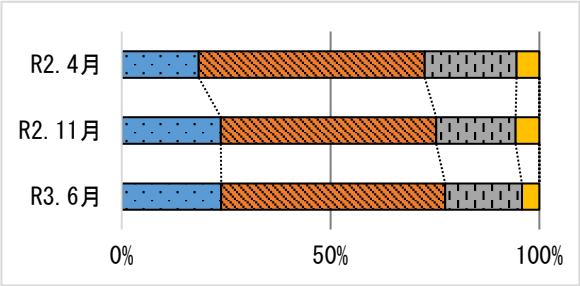
「学びのアンケート」の結果で特徴的と言えることが、「話合い」に対する意識の変化である。話合いでの積極的な発言【グラフ７】に対する肯定的な回答は、約４０％程度だったものが５０％超へ、自分の考えを伝える工夫【グラフ５】に対する肯定的な回答は、４０％程度から６０％超へ増加した。また、話合いを通した考えの拡充・深化【グラフ６】に対する肯定的な回答は、約６０％から約８０％と増加した。

このように、対話的な学びをすべての教科で意識しながら行っていった結果、話合い活動に対する生徒の意識の向上が見られたと考えられる。

（１）【学びのアンケートの結果】より

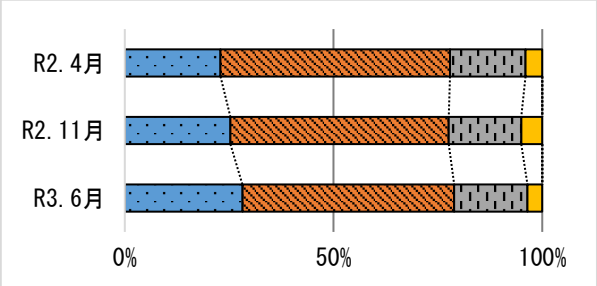
【グラフ１】　自ら取り組む力について

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思いますか。



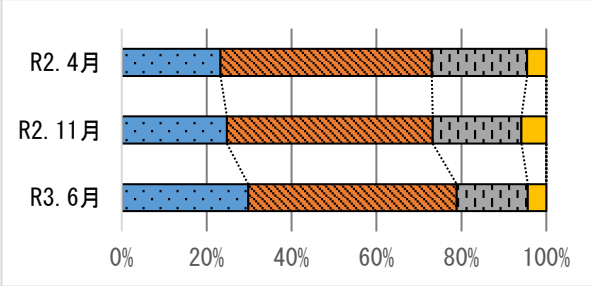

【グラフ２】　見通す力について

授業では、「なぜ～（疑問）」や「おそらく～（予想）」と思いながら学習に取り組んでいますか。



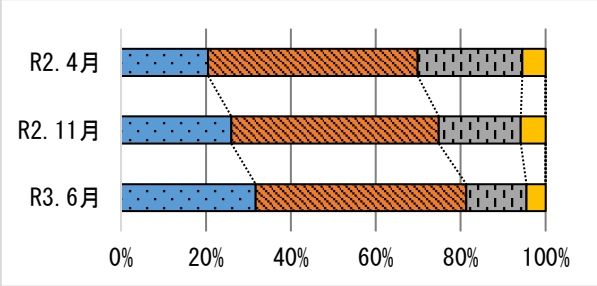

【グラフ３】　粘り強く取り組む力について

授業では、最後まで粘り強く解決に向けて取り組むことができていますか。



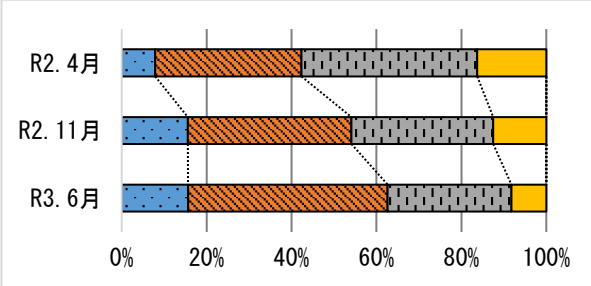

【グラフ４】　生かす力について

授業で学んだことを他の授業や日頃の生活に生かしていますか。



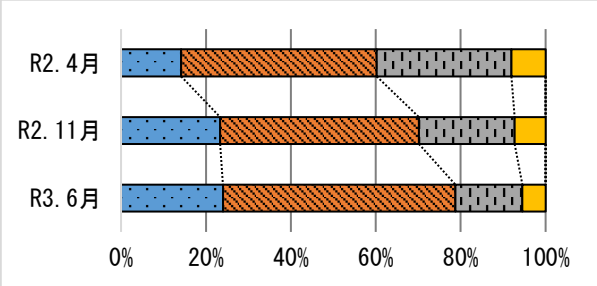

【グラフ５】　自分の考えを伝える工夫について

自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していると思いますか。



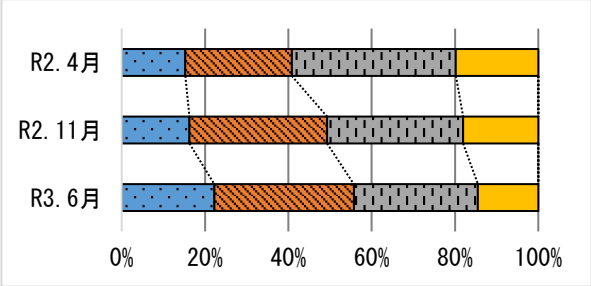

【グラフ６】　話合いによる考えの深化・拡充について

話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



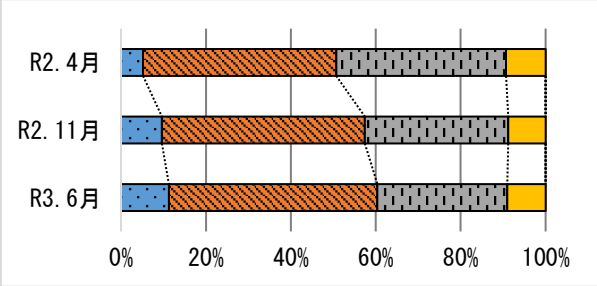

【グラフ７】　話合い時の発言について

クラスや友達の間で話合いをするとき、自分の意見を積極的に発言する方ですか。




【グラフ８】　周りからの期待・信頼について】

授業やクラスの役割で、先生や友達から期待されている、頼りにされていると感じることがありますか。




よく　まあまあ　あまり　まったく

（２）【キャリア・パスポート（人間関係形成に関する状況の結果）】より

【仮説２】について、本校のキャリア・パスポートは、特別活動の３つの資質・能力である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」について触れている。下の表は、「人間関係形成」に関わる３つの問いにおける子供の回答の変化を表したものである。教育活動全体を通してどのように変化してきているのかを４月、７月、９月の状況で比較すると、人間関係形成についての問いに関しての平均点は、増加傾向にある。前述の「学びのアンケート」で話合いに関する意識の向上が見られたが、「学びのアンケート」の【グラフ８】から周りの期待や信頼についても、肯定的な意見が約６０％と徐々に増加していることがわかる。人間関係形成に関わる各学級の日頃の取組や、気づきの木、エンカウンターなどの生徒の自己有用感を高める活動の効果が徐々に表れていると考えられる。

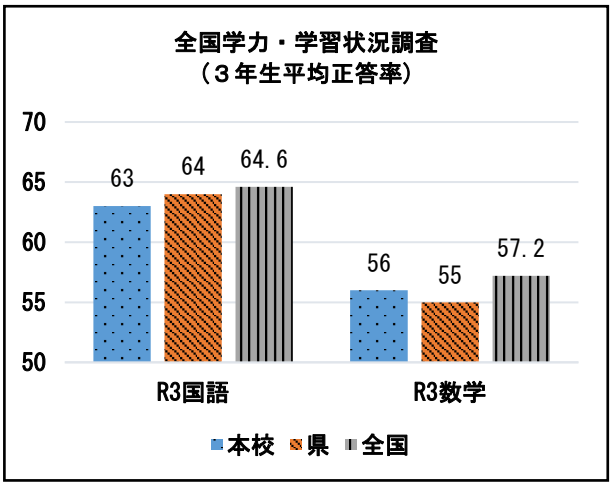
| 質問項目　※四件法 | ４月 | ７月 | ９月 |
|---|---|---|---|
| ①あなたは、人それぞれ考え方や感じ方が違うということを知っていますか。 | 3.64 | 3.70<br>（＋0.06） | 3.74<br>（＋0.04） |
| ②あなたは、違う考えであっても、否定せずに最後までしっかりと聞くことができますか。 | 3.32 | 3.45<br>（＋0.13） | 3.55<br>（＋0.10） |
| ③あなたは、いろいろな考えや立場の人と協力しようとしていますか。 | 3.33 | 3.41<br>（＋0.08） | 3.51<br>（＋0.10） |

（３）【全国学力・学習状況調査及び熊本県学力・学習状況調査の結果】より

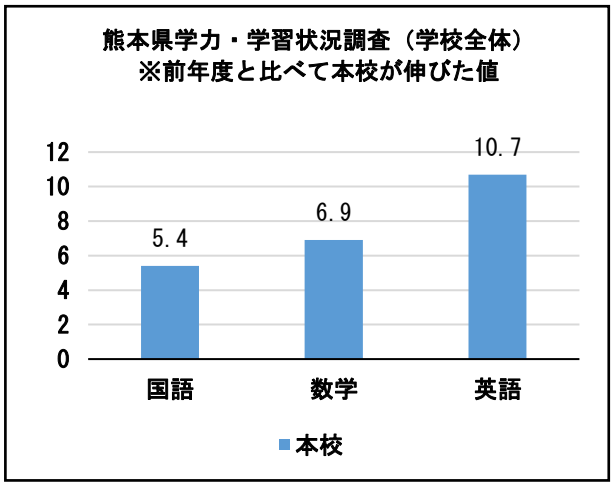
本校は、近年、「全国学力・学習状況調査」や「熊本県学力・学習状況調査」において、全国平均や県平均よりも低い状況が続いていた。【図３】は、「全国学力・学習状況調査」における、全国・県・本校の令和３年度の平均正答率についてのグラフである。国語は、県平均や全国平均に近づいてきており、数学の正答率に関しては、県平均を上回り、全国平均に近づいてきている。

また、【図４】は、令和元年度と令和２年度の「熊本県学力・学習状況調査」において、全国平均を１００とした時に、本校が令和元年度比で、どの程度伸びたかを表したグラフである。国語は5.4ポイントの上昇、数学は6.9ポイントの上昇、英語は10.7ポイントの上昇が見られた。しかし、全国平均や県平均の正答率と比較すると、まだわずかに達しておらず、各教科の基礎・基本の定着を図る取組も大切にしながら、引き続き、「学びに向かう力」を育成する取組を継続することが大切だと考える。

【図３】




【図４】




おわりに

２年に渡り、研究主題「『学びに向かう力』を備えた子供の育成」のもと、チーム一中として共通実践してきた。特に、学びの質を高める授業づくりにおいて、教師が意識することとして、視点①「導入・めあての工夫」、視点②「既有の知識・技能の活用」、視点③「対話的で深い学び」、視点④「学びの実感」の４つの視点を意識した授業を行い、各教師が力を入れたい視点を設けて、授業をコーディネートし、改善に取り組んできた。生徒たちも日々の授業や活動の中で、自分自身の役割を自覚して取り組んだり、自分自身のよさに気付く場面が増えたりして、自己肯定感の向上が見られるようになってきた。また、ペア活動や班活動を通した対話的な学びを積極的に取り入れることで、伝え合いや話合いなどの学び合いの場が増え、自ら課題解決に向けて取り組む姿も見られるようになった。さらに、教師が学び合いの場面を意識することで、生徒たちが積極的に発言したり、より分かりやすく伝えようとするようになり、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒が増えてきた。

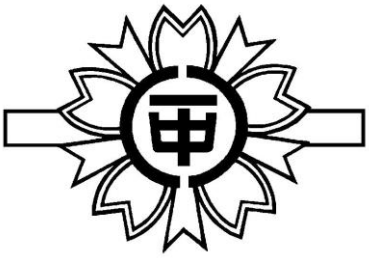
しかし、改善が見られたとはいえ、授業中に積極的に発言していると回答した生徒の割合は６割程度であり、みんなで発言して意見を深めたり、広げたりしていく協働的な学習についてはまだ十分とは言えない。このため、自分の考えを整理する時間を確保し、根拠を持って自分の考えを伝え合うなど、対話的で深い学びに向けた授業づくりを更に進めていくことが重要であると考えている。

「熊本の学び推進プラン」では、「熊本の子供たちが、『学ぶ意味』を問いながら、『能動的に学び続ける力』を身に付けることを目指す」という理念が掲げられている。私たち教師は、子供たちを「学びの主体」として育てていくために、子供たちの側に立った視点での授業転換が求められている。これまでの取組をもとに、実践をより確かなものとするために、より一層学校総体として「熊本の学び推進プラン」に基づく授業改善に取り組み、学びの質を高めていく授業づくりを通して、「学びに向かう力」を備えた子供の育成を目指していきたい。

研　究　同　人

〈令和３年度〉

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 永野　直文 | 中村　和也 | 濵﨑　志郎 | 澤村　雄二 | 鋤先　良浩 |
| 野田　貢一 | 宮川　秀一 | 吉岡　正宏 | 成田　浩子 | 栄　孝晴 |
| 井島　光明 | 早　智子 | 松田　直子 | 濱口健志郎 | 平住　民恵 |
| 髙松　明美 | 吉田　克巳 | 上田　隆弘 | 若山　順子 | 上野　伸介 |
| 與儀　拓哉 | 菊川　健史 | 廣瀬　崇行 | 本田　喬道 | 穂多田小百合 |
| 萱野　浩輔 | 西本　誉昭 | 尾上　健吾 | 田島　香織 | 宮﨑　瑞貴 |
| 千々岩彩香 | 五反　雄貴 | 増田　有香 | 佐藤　絹子 | 村岡　正裕 |
| 金子裕理香 | 冨田　真人 | 東　大貴 | 出口　遥平 | 古閑　千愛 |
| 白木　恵理 | 上野　智世 | 田島　俊貴 | 浦底　法恵 | 阪口富美子 |
| 大井　聡恵 | 島村　俊広 | | | |

〈令和２年度〉

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 上田　里佳 | 星田　章広 | 坂本　大輔 | 川野　達也 | 岩本　隆宏 |
| 石川　高志 | 森　光一 | 梅田　修 | 中司　利恵 | 瀧川　裕子 |
| 木村　初夏 | 前田　繕毅 | 前田　公子 | 椎葉　亮太 | |